



経済教育ネットワーク

Network for Economic Education



大阪部会 (No.94)

日 時: 2025 年 7 月 13 日 (日) 15:00—17:05

場 所: 同志社大学大阪サテライト

参加者: 参加18名

【内容要旨】

今回は8月に開催される『先生のための夏休み経済教室・大阪会場』(経済教育ネットワーク、東京証券取引所、大阪取引所、慶応大学商学部の共催)に関する報告と議論が行われた。

まず8月12日(火)の高校の部で予定されている大山正博氏(武庫川女子大学)と新友一郎氏(神戸高等学校)から「公共の実践(政治・経済):ゲームで体験した「雰囲気」を国際政治の学習に活かすディブリーフィング」と題する実践報告があった。この授業は、「貿易ゲーム」を出発点としながら、ディブリーフィング(ふりかえり学習)を工夫することで、国際政治の難しさを体験的に理解できるようになることを目標としたものである。「貿易ゲーム」では、道具を使って作った紙の製品を売って稼ぐことを各グループが目ざして行動する。ただし、グループによって用意された道具が違い、ゲームが進むにつれて収入の格差が生じるようになっている。このゲームを体験することによって、世界経済の仕組みと南北問題という課題を理解し、解決するための議論へと進むことが企図されている。

大山氏らは、ゲームにおける盛り上がった雰囲気を、熱が冷めてしまいがちなディブリーフィングにまで保ち続けるために、A「演じることと非日常性」、B「競合性」C「教師の「正しさ」からの解放」の3点をキーワードに、100分の授業案をこしらえた。まずはゲームの時のグループで議論し、その後グループを組み替えて国際会議を開き議論し、間に講義をはさんで、国際社会で生きるための3つのパワー(軍事、経済、文化)を日本がどう活用するかを議論して発表する、という構成になっている。この授業を実践した結果、盛り上がり要素が高まり、生徒達の学習効果の向上もみられた。

この報告に対し、篠原総一氏(経済教育ネットワーク代表)からは、この授業における貿易ゲームの役割、参考になっている中西寛氏(京都大学)の国際政治に関する考え方の変化、何が国益かという見方の多様性、などについての質問や意見が出された。また、「貿易ゲーム」を長年授業で使ってきた新井明氏(経済教育ネットワーク理事)からは、抽象的な議論にならないように、具体的な国を設定する、模擬国連に参加するなどのアドバイスがあった。

次に、8月13日(水)の中学生の部で予定されているシンポジウム「河原・奥田授業から経済の授業づくりを“たくさん”学ぶ!」の登壇者からの報告があった。まず河原和之氏(立命館大学他)から「日常の世界から科学の世界へ～すべての子どもが意欲的に学ぶ経済の授業～」と題して、授業づくりのポイントとともに、これまで実践してきた授業のいくつかが紹介された。ついで玉木健悟氏(式下中学校)が「河原先生から経済の授業づくりを“たくさん”学ぶ!」として、河原氏の授業の特徴を解説した後、河原氏の実践を自身の授業でどう使っているか、発展させていくかが報告された。

その後奥田修一郎氏(高野山大学)からは、現在取り組んでいる授業として「米の適正価格ってどのくらい?」と題する授業の構想が示された。奥田氏の授業づくりのモットーは、簡単には解決できない問題に向き合うこと、社会の仕組みを理解させることである。それを目指す奥田氏の授業がどのように作られていくのか、関係する新書、



経済教育ネットワーク
Network for Economic Education



専門書を読む、統計資料を探す、現場で農家・農協に聞いてみる、など授業開発の舞台裏も紹介されている。それに対し、関本祐希氏(市岡高等学校)から、奥田氏の授業の特徴として3点あげられた後、河原氏と奥田氏の授業の相違点も述べられた。

(文責：野間敏克)

次回開催予定：2025年10月12日(日)15:00～17:00、同志社大学サテライトオフィス(予定)